令和４年度　第２回上牧町総合教育会議
議　事　録

●日　　時　　令和５年３月２０日（月）１３時３０分から１５時３０分まで
●場　　所　　上牧町役場　２階　第２会議室
●出 席 者　　今中町長、松浦教育長、暁委員、土井委員、東谷委員、渡邉委員
●事 務 局　　松井部長、辻村課長、吉川課長、野﨑課長、千葉指導主事、岡田指導主事、中本課長、土井課長補佐、梅野主事補
●次　　第　　開会
案件
１　学校統合に伴う上牧中学校施設再整備について
２　部活動の地域移行について
閉会

●議事概要
町長挨拶
・久しぶりに卒業式に参加させてもらったが、子どもたちの人数の少なさを感じた。少しずつでも人口が増えて、子どもたちの声が町内に広がるように、我々も最大の努力をする必要があるという思いで挨拶させてもらった。町の評価というのは、福祉、子育てが大部分を占めるが、あわせて教育も同じような立ち位置で、若い保護者のかたの関心ごとの１番だと思う。
・なぜ学力を身につけるのか、なぜ知識を身につけるのか、そういったことを子どもたちにしっかりと意識をさせることが大切だと思う。先生方も一方的に教えるのではなく、なぜ子どもたちが勉強をするのか、なぜ学力をつけることが大切なのか、小学校の低学年のうちに子どもたちの頭に残るように教える必要があるのではないのかと常々感じている。
・こういったことを念頭に置きながら、上牧町として、子どもたちにどのような教育を提供していくのか、皆様方と一緒に考えさせていただければと思う。

案件１　学校統合に伴う上牧中学校施設再整備について

教育総務課長から、学校統合に伴う上牧中学校施設再整備について説明

暁委員　　私たち一般人からすると７０００万円の差が大きいと感じる。最終的に借金が子どもたちに回るような気がしている。資材も高騰していく中で、本当にこの金額で収まるのかというのも不安なところ。

１案の図面上で分からないところがあるので質問させていただきたい。新しく上の面をグラウンドにするとなると、職員室の位置によっては、教師からプールやグラウンドが見えなくなってしまう。安全上良くないと思うので、考慮すべき。新しく建てる校舎は４階ということだが、エレベーターはあるか。また、この新

校舎の建物の中に給食室も入るということか。

辻村課長　エレベーターは設置し、給食室も校舎の中に入る予定。

東谷委員　今、上牧町の教育に対して、一番心配に思っていることは学力。解消できるかどうかわからないが、方法の１つとして有力なのは、小中一貫或いは義務教育学校。まずは中学校の統合を目指し、中学校を新築して、上牧第二中学校の生徒も含めた１つの中学校にするという考えだが、分離型の小中学校がスムーズな教育の現場になるのか疑問を持っている。本町の状況を考えると、真ん中に大きな県道が通っており、それを越えて先生や子どもたちが移動していかなければならない。

新築するのであれば、もう少し時間をかけて、１つの場所に新築物件を建て、教育的な地区を作るのが良いのではないか。４５億円という金額に対して実質負担は２７億円ということだが、これ以上に見えないものが、上乗せされてくるだろう。おそらく５０億円近い、或いは５０億円を超えるような建設費が必要になってくる。今その金額を使うなら、もっと教育的に円滑な教育の現場を考えられるのではないか。

私であれば、耐震工事も済んでいるので、全面改修を行わず、数億円で数年持ちこたえられるような環境を整えることを考える。その数年の間に土地環境を整えられるのではないか。県道から南側の土地に小中一体型の学校を建設していただき、将来的な義務教育の現場として、小中一体型或いは義務教育学校をそこで進めて欲しいという思いがある。

統合は待ってくれないので、ひとまず受け皿を作ることは必要だが、４階建ての新校舎でなくて良いと思う。中学校の建設だけで２７億円、その先には小学校の統合が見えている。１０数年の間に小学校の改修或いは建て替えもしないといけないとなると、適正化として２７億円では済まない。ここに小学校部分が上乗せされることを考えると、上牧町の財政にかなりの負担がかかってくる。地方債残高がようやく下がってきたが、また跳ね上がることになり、実質公債費比率もそれに伴い上がっていくだろう。こういったことも含め、長期的な見方で、適正化というのも考えられた方がよいのではないか。

今中町長　最終的に、義務教育学校を目指すという方向性が定まったとしても、１つの敷地内で大きく敷地を取って進めていくことが、今の本町においては、条件が整っておらず、厳しい部分がある。当然財政負担については、考慮しないといけないが、南側に整備するプランが最もコストがかかることをご理解いただきたい。私としては、健全で持続可能な財政運営を勘案しつつ、可能な限り子どもたちの教育環境を充実させたいという思いで１案を採用した。今後どのようになっていくか分

からないが、義務教育学校として発足するとなっても、分離型として対応ができるという考え方のもと、まずは中学校に全力を注ぐということで、皆様に説明をさせていただきながら進めている。また、義務教育学校の考え方が大きく広まってきているが、義務教育学校でなければならないということでもなく、意見の集約がまだできていない。義務教育学校の話は、前回の議会でも出ていたが、現状はどうか。

松浦教育長　令和７年度に、小学校児童数の推移を見ながら、再度検討していく。今の上牧小学校、上牧第二小学校、上牧第三小学校に中学校１校となると、上牧小学校と上牧中学校を義務教育学校にすれば、上牧第二小学校と上牧第三小学校をどうするかという問題も出てくる。行う限りは３つの小学校が１つの中学校に収まるような形に持っていかないといけない。

必ずしも３校を２校にするのではなく、３校が３校のままで残るというのも、学校適正化を考えるうえにおいての選択肢の１つだと思うので、現時点では義務教育学校への移行も選択肢に据えながら対応させていただいている。最終的には令和７年度の小学校統廃合における方向性が大きなポイントになると考えている。

今中町長　東谷委員のおっしゃることも、当然意見としてあるべき話だが、本町としては教育長が説明したような考え方でこれから進めていきたいと考えている。ご理解の程、お願いしたい。

案件２　部活動の地域移行について

教育長から、部活動の地域移行について説明

暁委員　教育長のお話の中で言っていただいた提言や疑問、懸念されていることは、私が思ってきたことと同じ。特に人探しの部分は、都会ならまだしも、上牧町や北葛では難しいのではないかと思う。また、学校の中での部活動の意義が地域移行によって失われるんじゃないかという気がしている。人間関係や人格向上、人間形成等、学習面以外のたくさんの学びがある中で、外部の指導者がどのように指導していくのか疑問である。

今の状況で、平日に指導をするかたと土日に指導をするかたが違うとなれば、子どもたちが戸惑うのではないか。平日と土日で指導する方針が違うといったことがあってはならない。

また、先生方は、会議や面談等で平日の放課後に部活動に行くことが大変なので、本来はそこに指導してくれるかたが欲しいと思う。土日に指導してもらうことで、

土日の先生の休みは確保されるが、そこで教材研究をしたり、他の仕事をしたりするのでは、何か違うような気がする。平日のフォローの方が重要じゃないかと思うので、それであれば、雑務を減らして、指導に回れるようにしたほうが良いのではないか。

最終的に部活動として外部の指導者のもとでするのであれば、評価をどうするかということも考えないといけない。

指導者には資格が必要だと書いてあったが、現状きちんとした資格を持って、指導されているかたは少ないと思う。資格を取りに行くための日数が１日２日かかる上に、費用が必要となることから、持たないと指導できないというのであれば、人探しがさらに難しくなる。

それでも外部に移していかないといけないというのは、根本的に先生は部活を報酬なしで行うことが当たり前だという時代が何十年と続いてきたからだと思う。今後このようなことがないように、先生であっても外部の指導者であっても、責任がすべて指導者に集中しないような形づくりやきちんとした報酬について考えていただきたい。

今中町長　簡単に分かりましたと言えるような話ではない。平日と土日の指導者が異なるというのは難しい話で、指導の仕方や方針が違えば、子どもたちが戸惑い、大きな影響が出てしまう。そうなると、平日から指導に来てもらわないといけないが、人探しが難しく、多額の報酬にもなってしまう。

渡邉委員　先生は、たとえ運動が下手でも教育を念頭に置いた指導をしてくれる。だからこそ、こちらも安心して任せられる。スポーツ団体でいくらテニスが上手い、バレーボールが上手いといっても、子どもを育ててくれるかは別問題。部活動での人間形成は重要で、そういったことを専門に勉強してきている先生から教えてもらうことが大切だと思う。もし、スポーツ団体のかたに依頼するのであれば、そのかたの教育もしないといけないと思う。単にスポーツが上手いという理由で来ていただいても困る気がする。

暁委員　そこが本来の部活動の意義だと思う。一般のかたが、スポーツができるから教えに来たというのでは、教育の一環としての部活動にはならない。それであれば最初から地域のスポーツクラブにお金を出していけばよいと思う。勝つことだけを求めているわけではないので、学校の部活動を選んでいる。国が進めようとしてることは、本当に地域の教育のことを考えているか疑問である。

渡邉委員　単に先生の就業時間を減らすということしか考えていないように思う。

東谷委員　どうして曖昧なことになっているかというと、文部科学省ではなく、スポーツ庁が中心となって進めているから。文部科学省も教員の働き方改革を推進しているので、それに乗ってしまっているような状況になっている。半世紀以上この体制で、中学校の先生に任せて進めてきた。なかなか変えることはできないと思う。

大人になれば、スポーツは楽しみの一貫という形でできるけれど、子どもたちは、教育とスポーツの隔たりがなく、同じ比重を置いている。仮に、子どもたちが指導者と先生の板挟みになったときに、ものすごくストレスを感じ、逆効果になってしまう。やはり子どもたちのことを最優先して、ストレスを感じない方法を考えるべき。

暁委員　学校の先生は、子どもたちの日常生活をずっと見ておられるので、外部の指導者との間にすり合わせや打ち合わせが必要となり、そこに時間を費やすことになる。

東谷委員　子どもたちが、何らかのストレスを抱えて悩めば、保護者も悩む。それをどこへ持ってくるのかというと、指導者ではなく先生。先生が間に挟まれて、すごくストレスになり、今まで以上の負担になってしまうのではないか。

松浦教育長　今ご意見いただいた部分については、重々理解している。その一方で県の方からは、３年間の猶予があるので、しっかりとそれぞれの市町村で、これに向かって取り組んでほしいと話があった。まずは土日の部分から移行していきたいということで、県の教育長から声が上がっている。本当にできるのかという部分についても、いろんなご意見を聞かせていただきながら進めさせていただきたい。

暁委員　３年後地域移行が進んだとして、ちょうど中学校が統合される時期にあたる。今あるクラブが減ることも可能性としてはあるか。

松浦教育長　現在、上牧第二中学校で３つ程の部活動の募集を停止している。これらが復活する可能性もあるが、これから協議していく必要がある。

東谷委員　地域移行については、市町村に任せる形か。地域に任せるということなら、上牧町独自の方針を出せると思うが、作った後に、文部科学省からこういったやり方で進めてくださいということにならないかが心配。しっかりと県を通じて国へ打診しておかないと、町の勇み足で終わってしまう。今のところ国の方針は出ていないと思うので、今後どのようになっていくか、しっかりと掴んでおく必要がある。

松浦教育長　この件については、教育委員会会議でも議論していく必要がある。